RIPPLE SAILING CLUB
NO.65

月刊 1988・2.15

RIPPLE

（発行）　500円
リプル・セイリングクラブ
238−03
神奈川県横須賀市長井2−11−1
℡ 0468−57−1711

リプル・スキーツアー参加者募集中

カナダのカルガリーでは、冬期オリンピが行われているし、雪不足で大変だった各スキー場も、たっぷりと雪をたたえ、世の中ウインタースポーツ真っ盛りといった感じです。

そんな中、恒例のリプルスキーツアーが、いよいよ迫って参りました。既に参加を申し込まれた十数名の中に、平日、へーきでスキーにいってしまい、かなり腕を上げた片桐氏が、”私をスキーに連れてってー！”という、女性を三人も引き連れての参加である。

また、まっちゃんこと松沢清は、既に一月のうちに休暇届けを出してしまっているという、熱のいれようである。

何か考えただけでも、ウハウハして来そうなツアーになりそうです。

日時　1988年　3月4日夜−3月6日夜迄
（注）当日はリプルは完全休業になりますので注意してね!!

場所　妙高々原赤倉スキー場

宿泊　ロッジ・モンテローザ　TEL 0255-87-2635

費用　一名様　20,000円
（当日集金致します。）

集合場所　浜松町バスターミナル
世界貿易センタービル別館一階：JR浜松町駅
モノレール側改札口より徒歩一分

集合時刻　21時30分　時間厳守　（22：00出発）

使用バス　メイトのスノーライナーという、乗合バス

さーてビデオも撮るし、宴会もあるし、混浴じゃ無いけど露天風呂もあるし、遊びほうけて、くったくたになりそうな、リプル・スキーツアーは、今年も出発進行！！

注・・・・予めバスの切符を購入しなければなりませんので、20日（土）ぐらい迄に申し込んで下さい。

しかし、ジカノ今月は、いドジンのた月。そのかわり妙高のペンフ同対するけんね!!

[illegible]集合に遅れないでね

肉子さん景品とチョコレートありがとう。昼メシ皆で一諸に食でません。ヨーデルロッジで。。

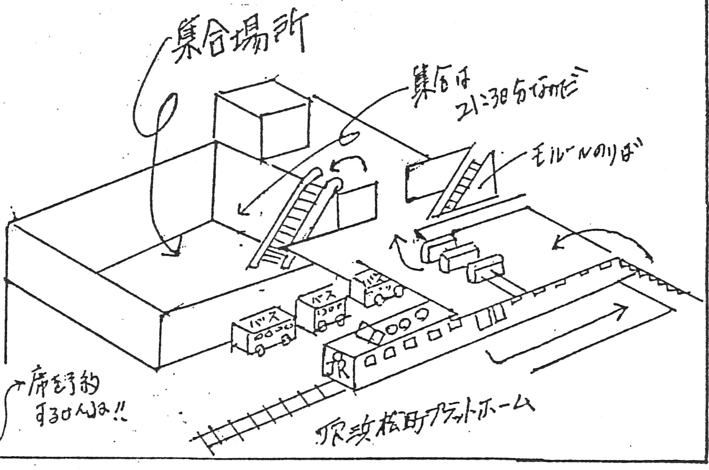
リプル・カップ開マク戦

3月12日（日）、いよいよ待ちに待った、1988年度の、リプルカップが再開されます。

今年の見所は何といっても、昨年続々とホッパーに乗り換えたホッパー新人組の高橋、藤村、松沢、の新新御三家、それを向かえ打つ新御三家の、昨年の覇者武倉、平川、目崎、そして、「後発の奴らにゃー、もっと強くなってもらわにゃー面白くねーぜ！」と意気まく御三家の長谷川、大木、高槻のみつどもえのレース展開に加え、覚えているだろうか、一年くらい前にリプル・カップでぶっちぎりの速さで優勝した渡辺が、ホッパーNO380をひっさげ、入会してきたのだ。

これだけでも見応えのあるレースなのに、それに加え、可愛い彼女と乗っていたマーチンコンビを売りっぱらい、ボートショーのときにホッパーを買ってしまった長友、この冬黙々と練習を重ねている小財、ここのところ仕事で大忙しの長倉社長、そしてスキーで忙しい山本、水野そして、OPC 、そして通研、まだまだ異色メンバーが入り乱れての、今年のリプルカップ、1988年シリーズ第一戦が、3月13日11：00 AM にスターといたします。

集合場所は下記。時間厳守!!（ハイ!!（編））



業者よ、ディンギーセーラーをなめんじゃねえぜ!!

皆さん、年々開催時期が早くなってきている、国際ボートショーを、見に行きましたでしょうか。

出展する、業者が多いことも有り、今年は4館を使用して、更に通路もめいっぱい使用しての、展示となりました。

今年のボートショーは、例年に無く大型艇の、それも、モータークルーザーの展示が、やけに目につきました。

円高のせいか、日本国民が裕福になったのか、業者が一角千金を狙ってなのか、価格も、何千万円、何億円とするものが、ごろごろと展示されていました。そして既に、この艇は何艇、契約済みですよ、と聞かされ更に驚いてしまった。

今年で27回目を向かえたこのボートショー、私がヨットに興味を持ち始め、かれこれ10回以上足を運んでおりますが、年々つまらなくなってきているのは、私だけであろうか。

かつては、館全体にディンギーのセールが乱立し、そしてセールの下には、シーホースが有り、ファイアーボールが有り、ミラーが有り、バーゴが有り、シード等があったものだ。と言って、回顧主義の感傷に浸る気など更々無いのであるが。

しかし、どうであろうか、年々の傾向としてディンギーの展示艇数が減ってきて、今年に関しては、ヤマハで4艇、その他2−3社の合計が10艇にも満たないのである。展示場所が4館もあってですよ！！。

ボートショーの見学対象となっている、今日のマリン人口の、構成比率を見るに、おそらくディンギーが一番だと思うし、NHKのアメリカズカップの視聴率7％にしても、おそらくディンギー派がかなりのウエイトを占めていたのでは無かろうか。

それにも増して、今のマリン産業を支えている、流通の人や、セールメーカーの人や、設計に携わっている人は、みんな、ディンギーのみそぎを受けてきたはずだ。

つまり、ディンギーの延長線上に、セイリングクルーザーがあり、モータークルーザーが有ったものだ。

しかし、今日に於て、手っとり早く金にした方が勝ちさ、という業者の売らんかな主義と、海の事なんか何にもわかっちゃいない、一部の金持ちの道楽主義がマッチしていて、かつては、夢をもたらしてくれたこのショーも、私のような、海が好きな、貧乏庶民には、なんともやりきれない気持ちになってくるのは、私だけであったのであろうか。

そんな中、12日の小雪の降りしきる外の展示場で、日本オーデェイのいつものおじさん、失礼！社長さんが一生懸命に、ディンギーの説明をしていた姿がやけに印象に残っている。、

確定レース日程

毎月第二週　リプル・カップ　（7月、8月を除く）11月迄
4月24日　第3回長浜オープンヨットレース
6月12日　第6回リプル、ファーイースト対抗戦

ニイ日は、去、[illegible]